

# 八街市協働のまちづくり推進計画

別添2

## 協働推進事業別の外部評価シート

### 表の見方

事業の効果：3点. 効果があった 2点. やや効果があった 1点. 効果がない 0点. わからない
優先度：5点. 高い 4点. やや高い 3点. どちらともいえない 2点. やや低い 1点. 低い
今後の展開：各項目を選択した委員の数

※事業の効果の平均点は、「0. わからない」を除いて算出しています。

事業番号	事業名	事業の効果	優先度	今後の展開			
				拡充	継続	見直し	廃止
1	区・自治会への参加促進	1.8	4.3	3	7	2	0
2	協働のまちづくりPR用パンフレット作成	2.3	4.0	7	4	1	0
3	小中学生に向けた市民協働の啓発・ボランティア活動への参加体験	2.1	4.5	9	3	0	0
4	民間事業者における社会貢献活動の促進	2.0	4.3	5	6	1	0
5	NPO法人の設立支援	1.8	2.8	0	3	9	0
6	市民講演会等の開催	2.6	4.1	2	10	0	0
7-1	高齢者の地域活動への参加促進（社会教育課）	2.2	4.3	2	7	0	0
7-2	高齢者の地域活動への参加促進（中央公民館）	2.6	4.3	1	7	1	0
7-3	高齢者の地域活動への参加促進（スポーツ振興課）	2.2	4.3	2	6	1	0
7-4	高齢者の地域活動への参加促進（高齢者福祉課）	2.2	4.3	2	6	1	0
8-1	高校・大学等の教育機関との連携促進（学校教育課）	2.0	4.4	6	3	0	0
8-2	高校・大学等の教育機関との連携促進（図書館）	2.3	4.3	5	2	2	0
9	市民活動サポートセンター（まちづくりセンター）の設置	2.7	4.6	7	4	1	0
10	市民協働活動の事例周知	2.2	4.1	3	5	4	0
11	市ホームページにおける市民活動推進に関する情報掲載ページの開設	1.9	3.3	0	6	6	0
12	市民主体による円卓会議（協働のまちづくり連絡協議会）の実施	2.0	4.6	10	1	1	0
13	パブリックコメント制度の導入	2.3	3.9	3	3	6	0
14	審議会等への公募等による市民の参画促進	2.1	3.2	0	10	2	0
15	市政に関する出前講座の実施	2.1	3.9	7	3	2	0
16	市民活動支援アドバイザー（コーディネーター・つなぎ役）の育成・設置	2.4	4.6	8	2	2	0
17	市民活動リーダーの育成	2.5	4.7	10	2	0	0
18	市民提案型まちづくり活動支援補助金制度の創設	1.0	3.8	3	6	2	1

# 八街市協働のまちづくり推進計画

別添2

## 協働推進事業別の外部評価シート

### 表の見方

事業の効果：3点. 効果があった 2点. やや効果があった 1点. 効果がない 0点. わからない
優先度：5点. 高い 4点. やや高い 3点. どちらともいえない 2点. やや低い 1点. 低い
今後の展開：各項目を選択した委員の数

※事業の効果の平均点は、「0. わからない」を除いて算出しています。

事業番号	事業名	事業の効果	優先度	今後の展開			
				拡充	継続	見直し	廃止
19	コミュニティビジネス・ソーシャルビジネスの普及促進	2.5	3.9	3	7	2	0
20	地域まちづくり組織の設立・運営支援	—	3.4	1	2	9	0
21-1	空き家・空き店舗を活用したまちづくり拠点の整備 (商工観光課)	1.3	4.1	4	3	1	0
21-2	空き家・空き店舗を活用したまちづくり拠点の整備 (都市計画課)	1.3	4.1	2	2	4	0
22	地域資源を有効活用するための調査・研究	2.0	4.2	8	3	1	0
23	協働人材バンク制度の創設	—	4.6	6	5	1	0
24	市民活動に対する寄付金の創設	—	3.4	3	8	1	0
25	ふるさと納税の利活用	2.2	4.0	3	1	2	0
26	まちづくりサポーター制度の創設	1.9	3.9	6	4	2	0
27-1	アダプト・プログラム制度（公共施設の里親制度）の創設 (都市整備課)	2.0	4.1	2	6	1	0
27-2	アダプト・プログラム制度（公共施設の里親制度）の創設 (道路河川課)	2.2	4.3	5	4	0	0
27-3	アダプト・プログラム制度（公共施設の里親制度）の創設 (下水道課)	2.0	2.7	2	6	1	0
27-4	アダプト・プログラム制度（公共施設の里親制度）の創設 (中央公民館)	2.4	4.1	1	7	1	0
27-5	アダプト・プログラム制度（公共施設の里親制度）の創設 (財政課)	2.0	3.4	1	5	3	0
27-6	アダプト・プログラム制度（公共施設の里親制度）の創設 (スポーツ振興課)	2.8	3.7	1	8	0	0
27-7	アダプト・プログラム制度（公共施設の里親制度）の創設 (スポーツプラザ)	1.0	3.0	2	4	3	0
27-8	アダプト・プログラム制度（公共施設の里親制度）の創設 (図書館)	2.8	4.3	1	7	1	0
28	市民協働推進課の設置	2.4	4.6	6	6	0	0
29	協働のまちづくり推進計画の検証組織の設立	2.6	4.1	1	5	6	0
30	市職員研修会の実施	2.4	4.5	5	7	0	0
31	全庁で取り組む協働推進体制の構築	2.2	4.3	4	8	0	0
32	地区別担当者制度の導入	—	3.3	3	3	6	0

# 八街市協働のまちづくり推進計画 協働推進事業別の外部評価シート

事業番号	1
<b>評価コメント</b>	
<p><b>【意見1】</b> 今、区・自治会は役員含め高齢化し、時代の変化に追いついていけないでいる。 区は本来、行政との関わりを優先すべきなのであるが、区独自の行事があり、手一杯な状態にある。 転入者も関わりたくないことが先にあり、メリットがないなどを理由に入会をしない。 今後、区の行事（祭礼、盆踊り、神社行事など）を実行委員制とし、区長職が直接関わらないよう変更し、区への加入促進などを前向きに考えるべきである。例えば、区に加入することで行事の時に還元するなど（祭礼、盆踊りの際にビールや綿あめを無料にするなど） 加入促進はもっと深いところにある気がする。</p> <p><b>【意見2】</b> 区への加入率ランキングを毎年度初めに発表し、加入率の高い区や加入率が向上した区の取り組みを「広報やちまた」や市のホームページにて紹介します。区への表彰状を出しても良いと思います。 良い意味で競争意識をもって取り組むことも大事であると思います。このことで、区の中でも区への加入率向上のための意見交換や検討、工夫の機会が増えていくのではないのでしょうか。</p> <p>区加入世帯に毎年度初めに八街市のごみ袋（全種類を1袋ずつ）を1セットにして配布します。このことによって、未加入世帯との違いを示してまいります。 よく「区に入っても何のメリットもない。」という声を耳にします。本来、コミュニティは損得で築き上げていくものではないと思います。しかしながら、人はあめ玉1つもらっても嬉しいものです。メリットという点に光を当て、ごみ捨てに差がないのであれば、ごみ袋で差を付けていくというアイデアはいかがでしょうか。</p> <p><b>【意見3】</b> 実績のところの③で「自治会関連図書を市民協働推進課の窓口に配架している」とのことですが、折角のアイデアがもったいないので、もう少し多くの人に利用してもらおう手立てはないかと思う。（今まで何人くらいが利用したのでしょうか？） 自己評価の④で「東吉田区や六区、みどり台区など、区独自の加入促進策を実施している地区も出てきている」とあるが、どんな策なのか知りたいと思うし、また、それを広く周知することは多くの人達に課題の解決を理解してもらうことになると思う。（私も知りたい）</p>	

# 八街市協働のまちづくり推進計画 協働推進事業別の外部評価シート

事業番号	1
評価コメント	
<p><b>【意見4】</b> 住民は、自治会へ加入するのは自由意志となっておりますが、市は、自治会に対し入会していただけるよう更なるサポートをしていかなければと考えます。仮に区加入率が下がり、地域コミュニティが崩壊した場合、結果として行政がすべてを行うようになっていくのではないのでしょうか。 この状況を防止するためには、未加入者側の意見を聞くような、踏み込んだ調査を行うべきではないのでしょうか。</p> <p><b>【意見5】</b> 区役員の高齢化や担い手不足、加入メリットの理解不足など課題があるなかで、現役員の皆様は日々活動をされています。区・自治会の再構築についても、5年、10年のビジョンで検討する必要があると考えます。加入率の低下への対策やメリット・デメリットを追及するだけでは解決しないと考えます。持続可能な組織運営を再度構築する必要があり、任意団体のため行政の補完については限界があるものの、住みやすい街を創造していくには行政のバックアップや連携は不可欠と考えます。</p> <p><b>【意見6】</b> 区長会意見交換会・勉強会の実施は大変意義のある取り組みに思う。ここで得た情報を各区や各自治会に持ち帰り住民と共有するまでがこの会の趣旨でもあることも認識してほしい。 役員の負担軽減を含め組織の改善、再編につなげる意見交換や討論の場を提供してほしい。行政側が区や自治会に作業委託している内容が、「適切であるかどうか」「負担になっていないかどうか」など運営負担の軽減という観点からの見直しが必要に思う。 また、今後、意見交換会や勉強会を開催する場合の提言として、各区の住民状況の見える化、すなわち国勢調査における小地域集計を基にしたデータ（人口、世帯、住居に関する結果、および高齢者世帯、外国人、母子・父子世帯、親子同居等）を提供して現状を数値として見えるようにして、現事業の洗い出しをするきっかけを作っていくべきに思う。データをもとに地域を知り、行事やイベントを振り返りながら求められている事業を検証する機会にしてほしい。地域メッシュで見えるデータにより、少子高齢化や独居、外国人などの現実を数字として見える化することは、何よりも「自分ごと」「地域ごと」として捉え易いものとも考える。</p>	

# 八街市協働のまちづくり推進計画 協働推進事業別の外部評価シート

事業番号	2
<b>評価コメント</b>	
<p><b>【意見1】</b> PRパンフレット（市民協働）への意見を拾いあげる工夫をしたい。 そのためにはPRパンフレットの配布先や配布方法を更に検討する。（駅、コンビニ、スーパーなどに置いてもらう） 一定期間が過ぎたら置きっぱなしではなく、減り具合を確認するため、置き場所を変更する。 また、内容も防災、環境など市民が関われる分野の伝達をひろげていくなど、常に発信をしていく。 もっと、本気度を表に表すために。</p> <p><b>【意見2】</b> 市民が地域の中での課題を自ら見つけて気が付く、まちづくりに参加する機会があれば良いが、まちづくりに関してはまだ他人事のように思う。そのため、まずは既に挙がっている地域課題を市民に周知することで、市民が感じている課題に対しては自分事として、まちづくりの当事者としての意識が芽生え、まちづくりへの参加が期待できるのではないかと。最初は市民が自分の暮らしと直接結びつく課題から取り組み、市内でまちづくりをしたという、成功体験を増やすことも必要かと思う。</p> <p><b>【意見3】</b> パンフレットの効果はとてもあったと考えます。今後は、新しい生活様式のもと、SNS等デジタル化の検討をしさらに幅広く情報発信を期待します。八街市が率先しDX（デジタルトランスフォーメーション※ITの浸透が人々の生活をあらゆる面でよりよい方向に変化させる）へ取組やITリテラシーの向上（ITを適切に活用できる能力）に取り組んでいただきたい。今後は紙媒体とデジタルの両立化が必要であり、HP、ツイッターだけの発信では物足りないと考えます。</p> <p><b>【意見4】</b> PR用パンフレットの作成については、子育てや高齢者支援に留まらず、防災編や環境編などの作成にも取り組むべきとの指摘がされていたが実現できていない。また、中高生に焦点を当てたパンフレットの作成も今後検討する必要がある。（特に2022年度より、高校生の新しい社会科目となる「公共」においては、自立した主体として社会や地域に参画・協力するための必要な資質・能力を育成するという教科が導入されることを考えると授業の資料としても活用できるものと考えますのでぜひ実現していきたい。民主主義、主権者教育に向けて）</p>	

# 八街市協働のまちづくり推進計画 協働推進事業別の外部評価シート

事業番号	3
<b>評価コメント</b>	
<p><b>【意見1】</b> 小中学生は地域資源ではないだろうか。郷土愛を育み、ボランティアの必要性や楽しさ、お得感なども考えられる体験学習として推進したいです。 昨今はボランティアも一般的になりましたが、ここではボランティア精神を体験する場となります。 日本には、ボランティアや寄附の文化が少なく、これらは宗教心から来ているが見習うべき良いことと思います。それがやがて郷土愛にもつながっていくことと考えます。 参加者には市（市民協働推進課）としてポイントを与え、広報などで紹介したりして広く知ってもらおう機会としたいです。</p> <p><b>【意見2】</b> 小中学生の目線で地域課題を見つけ、それに対するボランティア活動を行える機会があると良いかと思う（例：ごみ拾い、公園の遊具の掃除等）。活動をする中で憧れを持てる人材と一緒に参加できれば、なお継続できるのではないか。それと同時に、ボランティア体験から郷土愛の醸成を目指せるのではないか。 しかしその反面、ボランティア活動だけで本当に郷土愛が醸成できるかは未知数。そのため、拡充させる必要性はあるが、同時に見直し（新たな手段等）も必要かと思う。</p> <p><b>【意見3】</b> 将来を担う子ども達が、この八街を愛しふるさとと想えるようにしていくためには、子ども達が自身の気持ちを言葉にできる場と形にしていく過程を与えていくことではないかと思えます。 子ども達を自立させていくためには、中学校以上では生徒指導の機能を基にした教育が行われています。ちなみに生徒指導の機能とは「自己決定」「自己存在感」「共感できる場」であると言われています。 コロナ禍の中で苦しみ「自殺」「10代の妊娠」「ひきこもり」「不登校」が増えている状況があります。一人でも多くの子ども達が自分の手と足で生き抜いていけるように3つの「キョウイク」（教育・共育・協育）を八街で進めていただければと思います。</p> <p><b>【意見4】</b> ジュニア司書養成講座やボランティア体験教室はとてもよい実績であります。やはり、小中学生にはただやらせるのではなく、目的やビジョン、企画運営など手法についても学ぶ機会が必要と考え、情操教育につながる事業展開が必要と考えます。また、新型コロナウイルスの影響によりこのような事業が実施できないのであれば、実施可能な方法を検討していきたい。</p> <p><b>【意見5】</b> 社会福祉協議会が実施している福祉教育の学びを後方支援すること。行政において子どもたちが体験できるボランティア・メニューの洗い出しと、児童生徒が「やれること」「できること」の声やニーズをしっかりと受け止めたメニューの提供に努めるべきに思う。（文化祭などの学校行事に出向きニーズを拾う取り組みも必要）事業2における小中高生向けのパンフレットとの連動も考えていくべき。</p>	

# 八街市協働のまちづくり推進計画 協働推進事業別の外部評価シート

事業番号	3
評価コメント	
<p><b>【意見6】</b> 希望者を募っての実施だけでは、参加者が少なかったり、偏りができてしまったりする。 そこで、（できれば）学校や教育団体と連携して、授業で取り上げるなど全児童・生徒（学年ごとで可）を対象に実施できないか。 学校であれば、生活科や社会科、道徳科の授業、総合的な学習の時間、特別活動の時間などで実施することができるのではないだろうか。 「公民としての資質・能力の育成」（社会科の目標より）や「生活を豊かにしていくための資質・能力の育成」（生活科の目標より）、「国や郷土を愛する心をもつこと」（道徳科の内容より）、「環境・福祉・地域の人々の暮らしなどの課題」（総合的な学習の時間の内容より）、「多様な他者と協働する様々な集団活動」（特別活動の目標より）などと結びつけられると思う。 また、夏休みの課題の1つにボランティア活動などを入れてもらうことも考える。 そのためには、学校の教員や教育関係諸団体関係者の意識改革も必要だろう。学校の教員には、研修をしてほしい。例えば、例年、市教育委員会主催で行われる教育講演会などで取り上げてはいかがだろうか。 また、保護者の意識を高めることも必要だろう。家庭教育学級やPTAの講演会などで扱ってほしいと思う。</p>	

# 八街市協働のまちづくり推進計画 協働推進事業別の外部評価シート

事業番号	4
<b>評価コメント</b>	
<p><b>【意見1】</b> 市内の事業者の中でも一部の事業者が地域貢献をしていることは自分も把握している。地域貢献活動をしていない事業者との温度差も顕著ではないかと思う。そのため、活動をしていない事業者に対しては地域貢献活動をするにあたってメリット等の情報を提供していくことや、事業者側が地域ニーズを理解することも同時に必要かと思う。</p> <p>地域貢献活動に興味関心を示してもらえるよう、事業者に地域ニーズを示し、取り組みやすい内容やメリットをセミナーや地域課題の事例検討的な機会を設けて活動に参加してもらえる事業者を増やすのも良いのではないかと思う。また、地域活動をしている事業者を見える化する際に、事業者にどんな資源があるかまで記載してあると協力してほしい時に依頼しやすい。</p> <p><b>【意見2】</b> この促進にはコーディネーターが必要と考えます。企業と民間、行政などのマッチングなど、双方向のメリットと地域・社会への貢献、さらには未来への創造にもつながる考え方が必要と考えます。 ※ウィンウィンでは物足りない。公平公正ではなく、民間企業からの提案型コーディネートを確認していきたい。 ※ex1 企業が広報されるような事例は公平性が保てないため協力できないではなく。企業から提案があったものを、実施可能なものにコーディネートしていく考え方。</p> <p><b>【意見3】</b> 事業者のまちづくり参加促進という観点からも、事業者の社会貢献活動の見える化は重要に思う。と同時に、積極的なボランティア参加を促すことや、きっかけづくりの取り組みとして、事業者向けのボランティア出前講座や情報提供が必要に思う。</p>	



# 八街市協働のまちづくり推進計画 協働推進事業別の外部評価シート

事業番号	5
<b>評価コメント</b>	
<p><b>【意見1】</b> 官民協働で様々なニーズに対して取り組めるようにNPO法人の設立支援も非常に良い取り組みだと思う。しかし、NPO法人を設立することが目的になってしまわないか懸念される。新規設立の法人も既存の法人も社会的な課題解決に向けて目標を掲げ、想いを持って活動しているため、新規設立の法人と既存の法人との連携が取れ、情報共有ができるようになれば、もっと活動の幅が広がる気がする。また、既存のNPO法人の底上げや世代交代がされた時の支援体制も構築できるような仕組みも大切になってくると思う。</p> <p><b>【意見2】</b> 情報提供、相談等の支援業務が現実的であり特定非営利促進法に係る権限移譲の受託については、需要と推進課のマンパワー不足の現状を振り返ると見送ることが適切と考える。</p>	

# 八街市協働のまちづくり推進計画 協働推進事業別の外部評価シート

事業番号	6
<b>評価コメント</b>	
<p><b>【意見1】</b> 実績や自己評価の内容は事業内容に即した内容であり、①②から得たものも非常に重要なことかと思う。しかし、「現状・課題」や「目的」とリンクしていないのではないかと思う。 そのため、基調講演によりまちづくりに興味関心を持ってもらい、参加してもらうことは拡充する必要があると思う。しかし、「現状・課題」や「目的」に即して取り組める新たな手段を見直す必要性も感じた。</p>	

# 八街市協働のまちづくり推進計画 協働推進事業別の外部評価シート

事業番号	7
<b>評価コメント</b>	
<p><b>【意見1】</b> 各課の連携はとれているのでしょうか。情報を共有して、課を越えて話し合いがもたれば良いと思います。</p> <p><b>【意見2】</b> 地域活動とするなら、中央公民館・スポーツプラザに集めるのではなく、各区のコミュニティーセンター単位で行われている、老人サークル、老人サロン等の充実を計るべきではないでしょうか？出前講座は有るようですが、車でなければ集まらない場所より、歩いて集まれる場所を使つてはいかがでしょうか？</p>	

# 八街市協働のまちづくり推進計画 協働推進事業別の外部評価シート

事業番号	7-1
評価コメント	
<p><b>【意見1】</b> デジタル化が推進されるなか、シニアのITリテラシーの向上は喫緊の課題となっています。シニアのなかにもITに詳しい人材も多くいるなかで、担い手も支えてもシニアでITに強いまちづくりを推進する必要があります。</p>	

# 八街市協働のまちづくり推進計画 協働推進事業別の外部評価シート

事業番号	7-3
<b>評価コメント</b>	
<p><b>【意見1】</b> 実際に各活動に参加している人の中でのニーズは介護予防の観点や人と関わりたいから参加している等、多岐にわたると思うが、各団体の活動を継続することも大事だと思うが、計画に位置づけてある「現状・課題」と「目的」が「実績」とリンクしていないように思う。</p> <p>地域の高齢者が住み慣れた地域で生き生きと活動を継続できるような具体的な手法を見つける必要があると感じた。今後、高齢化率が益々上がると予想されているが、元気な高齢者を積極的に地域に巻き込んで、支えてもらうだけではなく、高齢者自身が地域の資源となれるような仕組み作りが必要ではないか？</p>	

# 八街市協働のまちづくり推進計画 協働推進事業別の外部評価シート

事業番号	7-4
<b>評価コメント</b>	
<p><b>【意見1】</b> 実際に各活動に参加している人の中でのニーズは介護予防の観点や人と関わりたいから参加している等、多岐にわたると思うが、各団体の活動を継続することも大事だと思うが、計画に位置づけてある「現状・課題」と「目的」が「実績」とリンクしていないように思う。</p> <p>地域の高齢者が住み慣れた地域で生き生きと活動を継続できるような具体的な手法を見つける必要があると感じた。今後、高齢化率が益々上がると予想されているが、元気な高齢者を積極的に地域に巻き込んで、支えてもらうだけではなく、高齢者自身が地域の資源となれるような仕組み作りが必要ではないか？</p>	

# 八街市協働のまちづくり推進計画 協働推進事業別の外部評価シート

事業番号	8
<b>評価コメント</b>	
<p><b>【意見1】</b> 若者が地域で能動的に活動することは地域づくりまちづくりにかかすことのできないことです。それではなぜ若者の参画が八街市にとって必要なことなのでしょう。若者が地域活動に参画することにより、どのような影響をもたらし、課題解決につながるのでしょうか。どの団体も若者の参画を課題としていますが、逆に若者からすればどのように参画すればよいのか、情報が無いといった課題があるのではないのでしょうか。八街市の地域づくりまちづくりに若者の参画がどうしても必要なのだという根拠と、若者参画型協働まちづくりの方策を検討していく必要がある。</p> <p><b>【意見2】</b> 近い将来、八街市を支える人材育成として高校生や大学生に地域について関心を持ってもらえるように、色々な手法から実際に八街市の現状を見てもらうことはすごく良いことだと思う。長い目で見た時に、今の高校生・大学生に対して地域に触れてもらうだけではなく、小学生や中学生の時から地域のことを考える機会を多くすることで、郷土愛の熟成に繋がるかと思う。 協働という視点においては、色々な手段や方法を用いて積極的に若い世代の時に実際に地域に触れ、郷土愛が熟成されていたら、様々な活動などの一役を担う人へとなれるのではないかと。</p>	

# 八街市協働のまちづくり推進計画 協働推進事業別の外部評価シート

事業番号	8-1
評価コメント	
<p><b>【意見1】</b> 千葉工業大学のオンライン学習は中学生何人位が受講したのか？将来八街を背負う子供達への広い世界を見せる良い事に思える。続く事を願う。</p>	



# 八街市協働のまちづくり推進計画 協働推進事業別の外部評価シート

事業番号	8-2
評価コメント	
<p><b>【意見1】</b> 文字離れが進む今、図書館の有り方をもっともっと活発に意見を出し合い考えるべきです。まずPC、ゲームでなく読む事と楽しさを身につけさせるべきではないでしょうか。</p>	

# 八街市協働のまちづくり推進計画 協働推進事業別の外部評価シート

事業番号	9
<b>評価コメント</b>	
<p><b>【意見1】</b> 協働のまちづくり推進の拠点となるサポートセンターは設置ありきで進めたい。そこではコーディネーターやリーダーの育成を行う場所ともなる。 地域の課題解決への取り組みは必要な情報提供などの支援を積み重ねることで修練されていくと思う。 したがって、早期に設置することを希望します。「段階的設置に関する基本方針」が意思決定されているのだから、すぐにでも対応すべきである。まずは準備室でも。</p> <p><b>【意見2】</b> 他市のサポセン機能と実績を確認し、スタートの準備を整えていく必要がある。そのため、視察や実績の共有は継続し深堀していくことが重要である。</p> <p><b>【意見3】</b> 推進委員会として大いに議論した市民活動サポートセンターの設置が見通せないこと、コーディネーター配置さえも予算措置されないことは非常に残念である。基本的には継続事業と考えるが、施設整備に力点を置くよりも、市民活動の情報収集・発信（拡散）、アドバイザー機能を強化していく施策を優先していくことが市民活動を支え拓くことに寄与するものとする。事業効果の最適化を念頭に、ソフト面の充実・強化に努めるべき。</p>	

# 八街市協働のまちづくり推進計画 協働推進事業別の外部評価シート

事業番号	10
<b>評価コメント</b>	
<p><b>【意見1】</b> 既に市内で取り組まれている市民活動が多岐に渡っていて、大きなイベント等であればなんとなく周知はできている印象があるが、数多くある市民活動の情報が発信しきれていないように思う。 外部への情報発信に対する担当職員のマンパワー不足もあるかと思うが、積極的にホームページや紙媒体だけではなく、SNSやメール配信も充実させ、まずは市民活動を行っている場所に出向いてもらうことも重要ではないかと思う。また、自己評価に記載されているとおり、市民活動を行った実績や報告的な内容だけではなく、「いちほら市民活動団体ウェブサイト」のような仕組みを導入することで、実際に活動の場に足を運んでもらい、見てもらえるような仕組みづくりをしたら良いかと思う。</p> <p><b>【意見2】</b> 推進課として市民活動の情報がゼロに等しい状況を打開するために、アウトリーチで情報収集に努めた点は非常に評価できる。また、地域福祉を担う社会福祉協議会を通して市民活動やイベント、会議のオブザーバー参加など対話的活動により、地域団体（人）との顔の見える関係や推進課の業務を理解してもらえる機会を作ることができたことは非常に意義がある。蓄積された市民活動の情報の整理、発信が課題。 市民活動認定制度の検討；公共性や公益性の高い事業・活動を実施している、又は実施しようとする市民活動団体を認定し（認定要件を設けて）、支援を行う制度を検討する。この制度と並行して事業番号18の実施も検討していく。</p>	

# 八街市協働のまちづくり推進計画 協働推進事業別の外部評価シート

事業番号	11
<b>評価コメント</b>	
<p><b>【意見1】</b> 「協働」は他の全ての課との連携があり、多忙であることを承知のうえで書きます。 自己評価のところの「地域で行われている活動を協働推進課の職員が視察し、市民活動に関する情報を収集しているものの、マンパワーが足りず、ホームページで発信できていない」とあるが、少しずつでもやっていく（発信していく）ことが必要ではないかと思う。わかっていることだけでもホームページへ載せることがどうしてもできないのだろうか？ 「まだ情報収集中で不十分であり、形式などは変更することもある」と明記したうえで、わかったものを随時、加えていけばよいのではないかと思う。持っている情報は少しでも（不十分でも）発信した方がよいと思う。</p> <p><b>【意見2】</b> マンパワーの課題がある中、積極的に足で稼いだ市民活動の情報が滞っている、発信されていない状況は改善されなければならない。市民活動との関わりがある課からの情報の収集に努め、推進課が蓄積した情報と重ね合わせながら有効活用していく必要がある。「いちほら市民活動団体ウェブサイト」の仕組みは参考にはなるが、現実には厳しいように思う。市民活動情報登録制度を設けて、市民活動やイベントカレンダー等の情報を定期発信できるようになれば推進課のHPへのアクセスも増えるのではないか。</p>	

# 八街市協働のまちづくり推進計画 協働推進事業別の外部評価シート

事業番号	12
評価コメント	
<p><b>【意見1】</b> 現在活動している市民団体を協働の視点から人材や資源として捉え、お互いの活動を水平展開や意見交換、協力体制を促進することでまちづくりに向けて進められれば良いと考えます。展開が進まないのであればサポートセンターや準備室から声掛けできるのではないかと。 「市民主体のまちづくり」は準備段階から必要である。</p> <p><b>【意見2】</b> 自己評価の「市民が主体となる話し合いの場を行政がどのように働きかけていけばよいのか、その進め方が見えぬ」とありますが、市民が主体となることに捕らわれ過ぎると進まないのではないのでしょうか。まず、最初の集まりは市が司会を担い、初めに集まりの主旨などを話す。つづいて小グループに分かれてそれぞれの活動と課題を出し合い、グループ毎に発表し合い、全体でも共通の課題や解決策を話し合う。その際、グループの話し合いと全体での話し合いの時間を十分にとる。その中で話し合いの場のリーダーをみんなで決められれば決めるし、その段階で決まらないようであれば、次の話し合いに持ち越してリーダーを決めるとよいのでは？最初の司会は、市の担当者の出番をできるだけ少なくすると、自然にグループの中からそれらしき人が出てくると思います。</p> <p><b>【意見3】</b> 円卓会議に参加する人は、地域活動に興味があったり、既に活動している人が主になってくるかと思う。市民が主体となる話し合いの場を充実させるとしたら、円卓会議の敷居を低く設定することで、地域の中でキーパーソンの発見や活動の参加者の裾野を広げられ、主体的な活動につながることも期待できる（円卓会議のレベル設定を低いものから始め、市民の地域活動に対して徐々にレベル設定を向上させるような・・・）。 また、小学校区や地区単位での地域課題について、当該地域内の市民に参加を促し、検討する方法で課題解決に向けて一歩前進するのも良いのではないかと。同時に、地域力向上スクールの中でどのような円卓会議であれば参加しやすいものかを市民レベルで検討してもらいたいとも思うため、拡充して得られるものは多いのかと思う。</p> <p><b>【意見4】</b> 職種、年代、国籍、障がいなどを問わず、協働のまちづくりをテーマにネットワークの構築は必要と考えます。また、ネットワークの構築は目的の共有や主体性、主体的な参加がキーとなります。※自分の経験から根拠づけの重要性を感じました。</p> <p><b>【意見5】</b> 地域課題の整理、炙り出しが徹底的にされていない現状があるように感じている。何ができていて、何ができていないのかを市民同士で議論する機会を小単位制・複数回、重ねていく取り組みを経ないと円卓会議に発展していかないように思う。事業番号6と連動させてテーマ（課題）をあぶり出すミニワークショップを定期的で開催し、顔の見える関係づくりを重ねながら主体的に会合が開かれる環境を整える必要がある。また、参加者周辺の仲間を必ず一人連れてきてもらえるような工夫を凝らしたワークショップにしていく。住民主体を謳うなら自由、対等、安心、認め合うという環境の醸成に努める取り組みにも力点を置かなければならないと思う。</p>	

# 八街市協働のまちづくり推進計画 協働推進事業別の外部評価シート

事業番号	13
評価コメント	
<p><b>【意見1】</b> パブコメ制度は良いと思う。しかし、コメントが少ないこと自体、この制度に市民が期待していないことになるのでは。あまりにも敷居が高すぎる感がある。これからは意見しやすい方式に変えなければ進歩しないと思う。 行政側からもどのような内容の意見をもらいたいのか要約した形でチェックを受けるのも1つだと思う。○×方式や選択方式など、幅広く意見をもらう事を目的とした項目も含めたい。</p> <p><b>【意見2】</b> 手続きをルール化し、一元化する仕組みを導入したことについては評価できる。ただ、パブコメを求める側としての配慮（簡便性）を深めていく取り組みを庁内に提案する必要もある。</p>	

# 八街市協働のまちづくり推進計画 協働推進事業別の外部評価シート

事業番号	15
<b>評価コメント</b>	
<p><b>【意見1】</b> 出前講座はとても良いことだと思います。 自己評価のところで「市民のニーズに合った講座に内容を改善していく必要がある」とありますが、市民のニーズに加えて市として市民に協力依頼を願うものを考えることも必要ではないでしょうか。</p> <p><b>【意見2】</b> まだ始まったばかりで私も知りませんでした。もっとPRした方が良いと思います。PR動画を作ってみてはどうでしょうか。わかりやすいと思います。 地元で自主防災を立ち上げたので、防災について活用させていただきたいと思えます。</p> <p><b>【意見3】</b> この出前講座はとても素晴らしい事業ですので、YouTubeなどオンラインでも配信することができればより効果が現れると考えます。そして、内容の拡充・質を高めることにより市民ニーズに応えることができると考えます。</p> <p><b>【意見4】</b> 市民ニーズよりも行政ニーズに立ったメニューが優先されている傾向がある。市民の「教えて」、「知りたい」に応える講座メニューを提供する努力をすべきである。新しい生活様式という要請を受けて、対面式からリモート式に変化していくことは必然と考える。その観点からいけば、オンライン配信によるZoom講座の導入も検討していくべきである。</p>	

# 八街市協働のまちづくり推進計画 協働推進事業別の外部評価シート

事業番号	16
<b>評価コメント</b>	
<p><b>【意見1】</b> 推進事業の中でサポートセンターは拠点であり、コーディネーターは活動支援のアドバイザーである。 このサポートセンターはコーディネーターをつなぎ役として地域活動を円滑にします。 人材の発掘と育成は、今すぐにでもスタートさせる必要があります。 行政との橋渡しなども考えるとコーディネーターには高いレベルの知識が必要であるし、また、育成や繰り返されることには時間やお金が掛かります。 今は1日も早く育成を始めなければ推進事業そのものが名ばかりのものとなります。 これに掛かる費用は何よりも最優先で捻出してもらいたい。</p> <p><b>【意見2】</b> 実績については非常によかったものと思います。 自己評価について、「まちづくりコーディネーターの設置に関して予算措置はされなかった」とのことだが、市の財政難の中、コーディネーター2人分の予算（700万円）が通ると思っていたのでしょうか。これからもこの予算が措置されることは難しいと思われます。もっと安くコーディネーターを設置することはできないかと考えます。または方向転換を考えることもありかと思う。</p> <p><b>【意見3】</b> 現在市民活動をしている団体の活動の継続や担い手の交代等があった時にでも円滑に市民活動が行えるように整備しておくことは非常に良いかと思う。活動を支援する人材に関しては新たに発見できるのは良いことであるが、現在市民活動をしている人から人材をピックアップしてサポート体制の基盤となるものを構築するのも必要かと思う（今現在市民活動をしている人だからこそ、市民活動をする上での課題を把握しているのではないか？）。 地域力向上スクールは参加できなかった人に向けて改めて同じ内容で継続して良いと思う。また、それと別の内容でも地域力向上スクールを実施していった方がより一層地域活動に興味がある人がスキルアップする場になるかと思う。その中でスキルを身につけた人がコーディネーターやつなぎ役となりうると思うため、拡充することはとても期待値が高い。</p> <p><b>【意見4】</b> 既存の市民活動団体（NPO）との共催による地域力向上スクールの開催も検討してもよい。スクールへの呼び込みとして個別的なアプローチで参加を促すことも検討すべき。（足で稼いだ市民活動情報を有効活用すべき） コーディネーター・つなぎ役の人材育成と活用という観点から、防災ボランティアコーディネーター養成講座（修了書の発行）及び防災ボランティアコーディネーター・フォローアップ研修を実施して、ボランティアと被災者との調整役を果たせるコーディネーターを養成しながら新たな人材発掘を試してもよいのではないか。その際、受講者が体験したことを活用できるようにフォローアップ講座を増やし、継続的な関心を持ってもらう工夫も必要。 テーマ型のコーディネーター体験を積み上げることはアドバイザー育成のうえで肝要に思う。</p>	



# 八街市協働のまちづくり推進計画 協働推進事業別の外部評価シート

事業番号	17
<b>評価コメント</b>	
<p><b>【意見1】</b> 地域で活動している方々の中にも多種多様な分野で活動できる人材が必ずいます。 人材育成は教育講座の中で培った知識や意見、さらに活動していく中から人材を見極めることができます。育成期間が過ぎ、各人が繰り返し活動していくことで、やがて一人ひとりが育っていくことになる。 数多くの人材を確保育成するためには、教育講座の継続は新しい人材確保につながると思います。</p> <p><b>【意見2】</b> この事業の課題はやはり若い世代にどのようにアプローチをかけていくかです。リーダーを発掘するのではなく、新たなリーダーを育成することにも注力を注ぐ必要があると考えます。継続してリーダー育成研修を行い、この研修の内容の質を高めることにより、数多くの方に修了証を発行し誰もがリーダーになりうる協働のまちづくりの推進が必要である。フォローアップ講座についても検討する必要があります。</p> <p><b>【意見3】</b> 地域力向上スクールの更なる発展継続が必要に思う。スクール生同士の校外学習として、Zoomを通したオンライン座談会を定期的を開催することで情報共有や相談、学びなど新しいコミュニケーションポイントを作ることも必要に思う。 (市民活動交流会) テーマ型の養成講座の企画（コミュニティリーダー、介護・生活支援サポーター、子育てサポーターなど） 事業16、事業17の事業統合も視野に入れての検討が必要。</p>	

# 八街市協働のまちづくり推進計画 協働推進事業別の外部評価シート

事業番号	18
<b>評価コメント</b>	
<p><b>【意見1】</b> 協働のまちづくりの中でも、事業化できる内容や可能性があるもの、また、おもしろそうなもの等々、協働の一環として行政からの支援や補助があれば、それらを形にする取り組みができます。 そして、それらが成功することになれば成功例として他で行おうとしている事柄の参考にすることができます。 見方、考え方を変えて新しいことにチャレンジすることがあれば、たとえ失敗があったとしてもその失敗から原因を訴求して新しいものを見出すことができたりもします。 この支援制度は協働の手法にとっても魅力的であり、期待したいものでもあります。</p> <p><b>【意見2】</b> 自分たちのやりたいことは自分たちでやるべきという考えで活動してきたので、この「補助金制度」の必要性がよくわからない。自分達のまちをよくしていくのに、そんなに補助をしなくてはならないのだろうか。それよりも、まちづくりの活動について市の各課が住民のサポートをしてくれれば補助金は不要なのではないかと思う。 私たちは「バスを走らそう」や「榎戸駅に東口を」の運動のときに調べたことや話し合ったことなどの情報をもって、各課を勝手に回ってメモをお渡ししてきたが、皆さん快く受け取ってくださり、運動の初期の段階で「大いに地元で盛り上げる」「こういう風にすれば東口はできる」とアドバイスをくれた職員がいて、大いに勇気づけられた。それらは私たちの活動を大いに後押ししてくれた。 既に職員の皆さんの協働に関する意識はだいぶ高まってきていると思うので各課の皆さんに、市民の話をよく聞くように話していただければ済むことだと思う。</p> <p><b>【意見3】</b> 補助金制度の創設と同時に市民活動団体に行うべき支援として、地域課題を深掘りして協働事業として解決する方法の学びの会、「どのようにすれば行政との協働が実現するのか」、「どのように協働事業を効果的に伝えられるのか」「効果的プレゼンの方法とは」と言った提案する側の活動団体に向けての具体的な学びの機会、サポート講座や方法も検討していく必要がある。</p>	

# 八街市協働のまちづくり推進計画 協働推進事業別の外部評価シート

<b>事業番号</b>	19
<b>評価コメント</b>	
<p><b>【意見1】</b>          地域の課題を観光や資源と結びつけ、八街の産物を製品化して、これらの品物をリサーチショップのような場所をつくり販売、市のふるさと納税の返礼品にしたりする。また、定期的に特販する等々、さらに売り上げが増えれば地域にとっての活力にも結びつく。          これらは場所と根気が必要になるが継続は力なりである。これも八街を知ってもらうための地域活動の中で協働の手法が発揮できるものになるだろう。          また、地域の自然環境を活かしたものとして環境整備の手伝い（ボランティア）や稲作体験、落花生掘りなど、地域の農家に協力してもらうことで、体験型の取り組みも考えられる。様々な地域活動を通じて、ビジネスの兆しも見えてくるだろう。</p> <p><b>【意見2】</b>          最近、買い物支援のため、移動販売を始める方のお話を伺う機会がありました。様々お聞きする中で、これから急速に求められていくのが、コミュニティビジネス・ソーシャルビジネスではないかと実感いたしました。          本年2月、首都圏（東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県）で買って住みたい街ランキングにて、八街市が17位に入ったとの報道がありました。          私は、当市におけるコミュニティビジネス・ソーシャルビジネスがこここのところ急成長し始めていると肌で感じておりました。このランキングの結果と少なからず関連があるものと確信いたしました。          少子・超高齢化社会の今こそ、この事業に優先的に力を注いでいくべきではないかと、ご提案申し上げたいと思います。          この事業に尽力していくことが、八街市の新時代を開いていく鍵になると言っても過言ではないと思っております。</p> <p><b>【意見3】</b>          ①八街生姜ジンジャーエール          八街商工会議所、八街生姜ジンジャーエール企業組合          ボトリング販売実績（卸・納品）              （企業組合化）H29      75, 013本                            H30     115, 244本                            R01     105, 351本                            R02      80, 698本（1月25日現在）          ドロップス販売実績（卸・納品）                            R02      16, 200缶（2月現在）          ※過去のPR   日刊スポーツ新聞（全国版）掲載                            テレビ朝日「旅サラダ」にて紹介                            TBSテレビ「ふるさとの夢」で紹介等々</p> <p>以上のように、各店へ卸、流通することにより市内の農業、商業、運送業等への経済効果や地域の活力を生み出し評価に値する。この事業をしたことにより商品は市民に親しまれ関心度も高くなっている。</p>	

# 八街市協働のまちづくり推進計画 協働推進事業別の外部評価シート

事業番号	19
評価コメント	
<p><b>【意見3】</b> つづき ②買い物弱者支援事業 買い物弱者支援事業は、高齢化や公共交通機関の撤退などで買い物弱者が増加している中、八街駅南口商店街振興組合のアンテナショップ「ぼっち」を本拠地として買い物代行サービスを実施している。現在の利用者は、地元商業者より大型店への買い物依頼が多い。また、福祉的な要素が強いため、担当部署の見直しが必要と考える。 補助申請団体：八街商工会議所 実施団体：八街駅南口商店街振興組合 令和元年度 登録者数244名 配達回数1,041回</p> <p><b>【意見4】</b> 高齢者や障がい者の中でもニーズは多岐に渡っていて、有償ボランティアの必要性は非常に高い。他の市町村では介護保険下で地域包括支援センターが核となり、地域課題に対してどのような解決方法があるかを検討する地域ケア会議があり、活発に地域ケア会議が行われている市町村では会議を経て事業の立ち上げなども実際に行われているため、有償ボランティアに関しては地域包括支援センターにも参画してもらい、検討するのも方法の1つかと思う。また、既存のコミュニティビジネスだけでなく、様々な人や事業者が参画できるような方法を検討するのも有効かと思う。</p> <p><b>【意見5】</b> 社会福祉協議会との連携し、地域課題、生活課題を充足するために必要な地域循環システムの構築の必要があると考えます。たとえば、家事援助や移動販売車など、地域（地区社協と自治会、関係機関）と利用者との関係性ではなく、企業や事業所が協働するコミュニティビジネスの普及が必要と考えます。行政は補完する立場で社会福祉協議会との連携が実現していきたい。</p> <p><b>【意見6】</b> 事業者のビジネススキルの向上に関する取り組みの実態が見えない。コミュニティビジネスは協働手法の一つであることを具体的な解説を通して行わないと活動主体だけでなく関係団体においても理解促進にはつながりにくいものと感じる。</p>	

# 八街市協働のまちづくり推進計画 協働推進事業別の外部評価シート

事業番号	20
<b>評価コメント</b>	
<p><b>【意見1】</b> 地区社会福祉協議会や行政区の運営と似た組織を設立することはナンセンスであると考えます。既存の組織に参画していく、新たな視点で協働していくことが必要と考えます。例えばですが、育成した地域のコーディネーター等を地区社協の委員として活躍していただくことを社協へ提案していく。</p> <p><b>【意見2】</b> 既存組織の地域社会福祉協議会を母体とした組織編成が妥当に感じている。まだまだ地域を囲い込む、縄張りの発想が強く外に拓いていく状況にない。広域課題に対して地区社協を母体としながら地域活動団体（ボランティア、NPO、事業者、学校等）を招き入れ、協議会型の地域運営組織としていくのが現実的に思う。</p>	

# 八街市協働のまちづくり推進計画 協働推進事業別の外部評価シート

事業番号	21-2
<b>評価コメント</b>	
<p><b>【意見1】</b> 空き家の件は4年間で6件しかない空き家バンクに力を入れるより、数多い空き家問題に取り組んでほしい。草刈り、道路に出た立木の枝切りも持主でなく町内ボランティアが実施している。小動物が入り込んだり、冬場の枯草火災予防、防犯、防災を考えてほしい。住民から持ち主へ言えない、橋渡しをして下さい。</p> <p><b>【意見2】</b> 空き家の活用については、八街市のオリジナリティに特化した取り組みを検討していくべきと考えます。より丁寧な空き家の実態調査を行うことにより、市民へ空き家対策や空き家の有効利用への啓発にもつながります。より身近な地域課題として深掘していくことが必要と考えます。</p>	

# 八街市協働のまちづくり推進計画 協働推進事業別の外部評価シート

事業番号	22
<b>評価コメント</b>	
<p><b>【意見1】</b> 地域資源の中には人、モノ、お金、情報などの捉え方があるが、協働の手法として進めるには、それぞれの項目毎にリストアップし、それぞれの使える所を拾い出し、活用方法を検討していく必要がある。</p> <p>たとえば、稲を作った田んぼ、水をひいた水路や池（ビオトープ）、畑（今は工作放棄地が多い）、また、国道409号を境とする分水嶺（作田川、鹿島川）、その他にも歴史的な場所など、活用できる資源はある。これらは協働推進の中でも「モノ」の資源であるが、活用には地権者の問題もあり、簡単ではないが協働の手法を使って効果的な活用を期待したい。</p>	
<p><b>【意見2】</b> 八街市南部地域には、これからの八街市の発展に大きな影響を及ぼすであろう地域資源が数多くあります。</p> <p>これまでも市内全域の視察を重ねて来られていることと存じますが、特に南部地域を重点的に調査、研究、有効活用していただきますと、八街市の魅力をより多くの人々に知っていただけるようになると思います。</p> <p>〈南部地域の主立った地域資源〉</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・用草、根古屋地区の桜並木</li><li>・根古屋地区の寝釈迦</li><li>・砂地区のカタクリ群生地</li><li>・小谷流地区の山桜とほたるの里、小谷流の里ドギーズアイランド、小谷流温泉森の湯、千葉バーディークラブ</li><li>・沖地区の東関東ホースパーク（乗馬教室）</li><li>・山田台地区のコルザホースクラブ（乗馬教室）、エルドラランチ（乗馬教室）</li></ul> <p>※アクセスもよく、市内のみならず県内、県外からの人の流れも大いに期待できます。</p>	
<p><b>【意見3】</b> 自己評価には市民協働推進課の職員が視察に行き、地域資源の把握ができたとのことだが、今後は市内で市民活動をしている人たちが地域資源や活動を把握することで、市内の似たような地域課題に対して解決につながることも期待できるため、市職員だけでなく色々な人が各地区で行われている取り組みを把握できるように拡充するのも良いかと思う。</p>	
<p><b>【意見4】</b> 市民協働推進課の職員が調査・研究していただいていることはとても高く評価するべきと考えます。この見える化やマッピングについても検討していくことが重要と考えます。</p>	
<p><b>【意見5】</b> 協働推進課が地域行事や地域活動に自ら出向き、足で稼ぐ手法は、地域資源の情報が皆無と言っていい初期段階では大変意義ある事業であった。</p> <p>収集・蓄積された情報を整理、検証し、活用できる情報にしていくことが今後の課題。</p>	

# 八街市協働のまちづくり推進計画 協働推進事業別の外部評価シート

事業番号	23
<b>評価コメント</b>	
<p><b>【意見1】</b> この人材バンクについては、登録して下さる方をただ募集をかけて募るのではなく、担当課やサポセン、コーディネーターがアプローチをかけ、登録してほしい人の予定者バンクまたは、こちら側から働きかけ登録してもらうような取り組みも必要と考えます。</p> <p><b>【意見2】</b> マッチング・コーディネート機能を持つ中間支援体制が整わない中で果たして人材バンクへの登録が進むのかは甚だ疑問に思うところである。 事業26との関連を整理する必要がある。</p>	



# 八街市協働のまちづくり推進計画 協働推進事業別の外部評価シート

事業番号	24
<b>評価コメント</b>	
<p><b>【意見1】</b> 自己評価で「市民活動団体への補助金制度が創設できていないことから～この資金調達の仕組みもできていない」とある。市の財政が乏しい中で、市民のまちづくりに対する1つのあり方として「自分には体力がないので体は動かさないが寄附は行為により活動への参画はできる」という選択肢もあるとよいと思う。 まずは、いくつかの団体（公園管理サポーターなど）に寄附の一部を出せると良いのかと思う。</p> <p><b>【意見2】</b> 社会福祉協議会との協働の取組の検討をお願いします。また、全国的にもファンドレイジング～お金の上手な集め方～は、地域課題として多く上がっています。八街市のまちづくり団体の課題でも同様に、このようなニーズが聞かれます。この手法を行政が地域住民、市民活動団体と共有し推進していくことが必要と考えます。</p>	

# 八街市協働のまちづくり推進計画 協働推進事業別の外部評価シート

事業番号	25
評価コメント	
<p><b>【意見1】</b> ふるさと納税は少しずつ寄附金は増えているが、返礼品なしはいかがなものか？資金の無い八街であっても真剣に考えるべきである。市長からの丁寧な礼状はサイン自筆で当り前に実施していると思いますが・・・。</p>	

# 八街市協働のまちづくり推進計画 協働推進事業別の外部評価シート

事業番号	27
<b>評価コメント</b>	
<p><b>【意見1】</b> 各課を越えた連携・情報の共有が必要かと思います。すでに行なっているとは思いますが。</p> <p><b>【意見2】</b> 二区ではボランティアで公園の草刈り、東部グラウンドの草刈り、土入れ等が行なわれている。愛着が有り実施している事であるが、市は誰がボランティアをして、きれいになっているか知っていますか？バイパスのトンネル通路の落書き消し等、市が上塗りした所が不満で、我々で何とかしたいと声が上がっているが、実施に結びつくか？</p> <p><b>【意見3】</b> 各事業について、それなりの枠組みがあり協力者も少なからずいると思うが、これらの事業それぞれには接点が少なく協力体制がとれてないのではないか。それぞれの事業を連携すれば協力者を増やすことができるし、幅が広がるのではないだろうか。行政も各課対応であり里親制度などでは協力しても良い又は協力したいと感じる内容になっていない。</p>	

# 八街市協働のまちづくり推進計画 協働推進事業別の外部評価シート

事業番号	27-2
評価コメント	
<p><b>【意見1】</b> 側溝清掃に昔の様に消防車の力を借りてはどうでしょうか。</p>	

# 八街市協働のまちづくり推進計画 協働推進事業別の外部評価シート

事業番号	27-3
<b>評価コメント</b>	
<p><b>【意見1】</b> 大池調整池の除草作業について。除草の話だけでは魅力がないので参加まで至らない。大池での市民のビオトープ（水辺づくり）里親募集中など協力したい夢を感じさせるような目を引くプランが必要。 大きな力が必要であれば地域の法人も巻き込めるのではないだろうか。</p>	

# 八街市協働のまちづくり推進計画 協働推進事業別の外部評価シート

事業番号	27-5
<b>評価コメント</b>	
<p><b>【意見1】</b> 黎明高校が自主的に実施していて、行政は特に支援していないとのことであるが、自主的に実施しているとしても、何らかの形で行政も関与していかないと、せっかくアクションを起こしてくれていても継続できないのではないかと、また、市役所の美観向上に繋がると、市民の印象もプラスに変わって来ることに期待して、積極的に色々な団体等に協力を打診しても良いのではないかと。</p>	

# 八街市協働のまちづくり推進計画 協働推進事業別の外部評価シート

事業番号	27-7
評価コメント	
<p><b>【意見1】</b> 現段階でのアダプトプログラム制度の活動を行いたい人が少ないとのことであつたが、スポーツ少年団等の活動の中でスポーツプラザを維持する活動を盛り込んでいくことはできないのか？スポーツを通して思い出がある場所のであれば愛着も生まれ、将来的に維持管理に協力する人も出てくるのではないか？</p>	

# 八街市協働のまちづくり推進計画 協働推進事業別の外部評価シート

事業番号	28
<b>評価コメント</b>	
<p><b>【意見1】</b> 協働推進課は、協働のまちづくりを推進する目的で設置されたが、目標であるサポートセンターの設置やコーディネーターの配置などが見通せなくなる中、拠点となるべきサポートセンターは是が非でも設置して協働のまちづくりを進めたいものです。（まずは準備室でも） 市内の人材を活用しながら市民とつくりあげる新しい八街のまちづくりです。コロナ以降の社会は今までとは全く違う新しい考え方を強られるものでしょうし、行政サービスも最小限に絞らざるを得なくなると思います。 市民提案型の協働のまちづくりがいかに早く推進できるかが将来の八街を大きく左右すると思います。</p> <p><b>【意見2】</b> 市民協働推進課のマンパワーは職員を増員するより、パートナーシップの締結や市民協働サポーター（仮）を活用する方向にシフトしていく方が現実的である。</p> <p><b>【意見3】</b> 協働推進課が市民と行政をつなぐための役割を担うには、「人、モノ、コト、情報」への能動的活動にも注力しなければならないはず。 能動的活動を担保するマンパワーと予算が圧倒的に足りていない。改善の余地あり。</p>	



# 八街市協働のまちづくり推進計画 協働推進事業別の外部評価シート

事業番号	29
<b>評価コメント</b>	
<p><b>【意見1】</b> 計画策定に自分が関わった場合は、その計画がどのように活かされたのか検証するまで関わりたいと思う。そのため、計画期間と公募委員の任期が同じでないと今回の外部評価に関しても難しいように感じる。しかし、外部評価という視点では、計画策定段階での考え等を知らないため、より率直な評価や意見を聞ける気もする。今後、計画の検証や見直しと併せて公募委員の任期についても見直しが必要かと思う。</p> <p><b>【意見2】</b> このPDCAサイクルによる評価は、市民協働推進課の素晴らしい取り組みの一つであると考えます。やりっぱなしではなく、次年度、3年後、5年度に向けてブラッシュアップしていくことこそが、市民協働、協働のまちづくりを推進していくとても重要な点だと理解しています。</p>	

# 八街市協働のまちづくり推進計画 協働推進事業別の外部評価シート

事業番号	30
<b>評価コメント</b>	
<p><b>【意見1】</b> 市職員研修会はとても重要であると考えます。四街道市役所のシティセールス課齋藤久光氏や市社協にあっても豊中市社協の勝部麗子氏のように、公の職員が地域づくりまちづくりを率先してコーディネートし、まちをデザインしていくビジョンを実現していくことの費用対効果は計り知れません。市職員の研修会を継続していくことにより、市職員の資質向上を図っていただきたい。</p> <p><b>【意見2】</b> 協働手法をわかりやすく解説した「協働の手引き」を作成し啓発する。（そもそも論として協働推進課以外は市民協働を自分事として捉えていない一面がある） 採用5年程度の職員を対象に市民活動団体を見学して活動内容を学ぶという大胆な取り組みがあってもよいのではないかと考える。 とにかく、市職員が協働を自分事として考える機会、体験を今後も検討していくべきに思う。 ※「協働のまちづくりに関するアンケート調査」「各種セミナー・職員研修会参加者アンケート」の分析結果を職員一人一人にフィードバックする手立てが必要。</p>	

# 八街市協働のまちづくり推進計画 協働推進事業別の外部評価シート

事業番号	31
<b>評価コメント</b>	
<p><b>【意見1】</b> 実績の②、庁内協働推進担当者を設置したことはとても良かったと思う。 自己評価の「職員によって協働の意識に温度差があることや担当者に異動があることなどから継続的に議論を進めていくことが難しい」とあるけれど、これらは職員研修を様々な角度から重ねていくことにより職員全体の意識は高まってくると思われます。職員全体の意識が上がれば多少の個人の温度差は問題なくなると思います。 協働推進課の皆さんは大変ですが、根気よく頑張ってください。</p>	

# 八街市協働のまちづくり推進計画 協働推進事業別の外部評価シート

事業番号	32
<b>評価コメント</b>	
<p><b>【意見1】</b> 自己評価で、「地域まちづくり組織ができていないため、事業に着手できていない」とある。 市職員の担当者を決めて各地域の会議、活動等に参加してもらうことはとてもよいことだと思う。そこで話し合いに参加する中で、市の内情（財政のひっ迫や職員も少なくせざるを得ない状況など、市の現状）を少しずつ話し、そういう中でも前向きに市も地区の人達もみんなで考えていく状況をつくり出していけるとよいと思う。ただその時、職員とその地域の人達との相性も考えねばならないと思う。職員の皆さんに、あまりに負担になるようなら、制度を導入する時期は考えなければならない。</p> <p><b>【意見2】</b> 地区別担当者制度の導入に関しては、積極的に進められたら非常に良いと思う。各地域の課題を把握している市役所職員がいることで、災害時や地域の中の複雑な課題が生じた際に支援を得やすいように思う。また、行政側から感じている課題を地域に伝えることで地域の努力で解決に至る課題もあると思う。しかし、災害時等のすぐに支援が必要な時に担当者を決める際は細かな配慮が必要になると同時に、担当者への負担が過多にならないように地域と担当者の双方で役割を明確にする必要もある。</p> <p><b>【意見3】</b> 多様な地域課題を自分事として議論する下地が（行政における）確立されていない状況下では地区別担当者制度は機能せず時期尚早に思う。 市職員の市民協働への理解度や協働の発想を持った企画立案への意識改革が進まなければ地域と行政の溝はさらに深まるものと考えます。 地域まちづくり組織がルールに則って自由闊達に議論する場、情報共有する場であることを前提とした意識が醸成されないと行政批判の場になる危険性がある。 市民、市職員双方の意識改革が重要。</p>	